

1977 年度学会賞受賞作品・授賞理由

◆論文賞「アメリカ都市計画とコミュニティ理念」

渡辺 俊一(建設省建築研究所建設経済研究室長 工博)

〈選考理由〉

一般に欧米の都市・住宅計画に関する研究・調査では、社会・経済・文化面の差異が大きいため、十分にその意義とか効果などを究明できないことが多い。特にアメリカの場合は、人種問題をかかえているので、社会問題に対する突き込んだ研究がなければ同国の都市・住宅計画は理解され得ない。

本書は、このような難問に挑戦したもので、以下のような特徴を備えている。

1. 単なる技術論的介绍でなく社会的・歴史的背景のもとで検討しており、問題への取り組み方がユニークである。
2. アメリカの中産階級に焦点をあて、同階級の抱いているコミュニティ理念の追求を通じて、アメリカの近代都市計画を解析している。
3. 丹念に文献収集を行うとともに、上記の視点から適切な解析を行っているので論旨は明快であり、また説得力も強い。

わが国の地域地区制度および土地区画整理技法は、今日、大きな課題をかかえており、計画への住民参加を含む、より包括的な計画制度や地区詳細設計の導入などが考慮されているが、本書で紹介されているアメリカでの計画理論、計画制度と地域社会との関係についての検討は、上記の諸問題の研究に際し、非常に役立つことが指摘される。

よって本書は、都市計画学会論文賞授賞に該当するものと思われる。

◆論文奨励賞「既成住宅地の更新過程と居住環境保全のための規制的計画手法に関する研究」

高見沢 邦郎(東京都立大学建築学科助手 工博)

《選考理由》

既成市街地の居住環境保全の問題は、今日緊急を要する都市計画課題のひとつであるが、従来、これに関するまとまった研究は少なかった。本論文は、既成住宅地における住宅の建かえ、建かえにともなう木造アパート・鉄筋アパートの住宅地への混入、宅地の再分割などの更新過程について実態調査を行い明らかにするとともに、これら更新による居住環境の悪化を防止するための地域地区制・建築協定・任意協定などの規制的計画手法を歴史的にまた実際の適用過程を通じて検討し、そのあり方を提起したものである。

本論文は、既成住宅地の形成過程・更新過程を扱った第1部(1～7章)と、環境保全のための規制的計画手法を扱った第2部(8～12章)より成っているが、中でも建築協定に関する部分(10章)は、示唆に富んでいる。そしてこの章は、相隣環境をはじめとする居住環境保全や地区計画的検討は、地区住民の主体的かかわりのうえに展開されるべきだとする論者の姿勢が、一番よく表われている章でもある。

以上、比較的新しい研究分野に挑戦して、全体的にかなりの成果をあげ得た論文といえよう。

◆設計賞「筑波研究学園都市の計画・建設」

石川 允(筑波研究学園都市都市計画部門代表)

今野 博(筑波研究学園都市都市建設部門代表)

《選考理由》

筑波研究学園都市建設事業は、大都市圏対策の一環として、首都中心部より移転する研究、教育機関を核として、新しい自立都市を形成しようとする事業であり、国の内外を問わず、その規模、内容において、画期的なものであり、すでに国際的にもユニークなニュータウンとして注目されているものであります。

この事業はきわめてユニークな構想とマスタープランにもとづき、宅地造成、公共施設の整備、研究教育機関および住宅の建設、地域振興整備を含む都市中心核の構

成など、各種建設事業が総合的調整のもとに進められ、昭和54年度概成が見込まれている。

本事業は学園都市として画期的新都市建設を達成しつつあり、その計画、建設面での業績は極めて大であり、都市計画の発展に寄与するもので、昭和52年度学会賞（設計賞）の受賞に該当するものである。

なお本事業には多くの識者が関係されているが、研究学園都市として全体計画の推進に当たられている計画担当部門を代表して石川允氏、新都市建設整備を担当されている建設担当部門を代表して今野博氏の両氏を受賞者、として決定したものである。